

千葉大助教授・社会学 清水馨八郎
環境開発センター計画部長 田村 明
建設省建築研究所都市計画研究室長 日笠 端
早大教授・建築学 吉阪隆正
-50 頁載-

無計画

集まることによって得られる利便から、人は時代の発展に応じて村や町を、都市を造ってきた。そして村や町や都市は、それぞれに長い時代にわたって併存しながら生きてきた。しかし今、まず村が死のうとしている。土地や家への執着が強いはずの農民たちが何千年も続いてきた部落や村を捨て、一部落、一村が完全に無人と化し、残された田畑や家が原土に帰ろうという、日本の“ゴーストタウン”が方々に現出している。これは嘘のような本当の話である。さらに、町の衰退の色も隠せない。ただひとり肥え太るのは都市ばかりである。

そしてその都市は、混乱の象徴であり、そこには人間疎外の状況が充満している。しかもその都市へ、東京へ、人びとはさらに集まってこようとしている。それは確かに、善悪を超えた、必然的な時代の流れてはあろう。しかしその流れが果して適切な方向に導かれているのだろうか。

私たちは、この勝手気儘に流れ渦巻くエネルギーを、統一的に正しく、人間的な視野から制御できる強力な機構が早急に整備されることを望まないとはいられない。

そして、建築物の超高層化や衛星都市の建設が具体的な日程にのぼりつつある今日、建築家は何をすればよいのか。建築学から都市工学が分離独立したが、今後の建築教育のあり方や職能分離の方向はどうあればよいのか。また、そこから輩出する人材を有効に生かし得る社会機構は…etc. いずれにしても、これら諸課題の解決は、日本における都市再開発の方向をいかに把え、いかにその方策を考えるかにかかっているといえよう。本誌は、ここにそのビジョンを探りたいと考えた。しかし、とても一度に語りつくせる問題でもない。今回の座談会をそのアプローチとして、あらゆる分野にわたり時間をかけ、さらに視野を広め深めてゆきたいと考えている。

(編集部)



都市への集中化傾向とその分散への可能性

編集 それぞれがお感じになっている、現状の日本の都市の問題点を出していただくことから始めたいと思いますが、この場合の都市というのは国土開発的なものも含めた広義の意味に解していただきたいと思います。

日笠 まず、広い方からゆきますか。(笑)

吉阪 人口問題からゆきますかね。現在の世界の人口は 35 億ですか。しかし、今の増え方でゆくと、紀元 2000 年をちょっと越える頃には 70 億ぐらいになるというが、実際非常な増え方ですね。そうなった時、その人間を均等に分布させるとして、たしか 500 軒ぐらいの圏域中に 1000 万人という計算になるんですね。ところが、日本はすでにそういう状態にあるわけで、3・40 年から 4・50 年先行した状態にある。だから日本がこの問題を実験した結果がうまくいけば、世界中の見本にして下さいということになるだろうと思います。(笑)

清水 日本は、多すぎるということですか。

吉阪 いや、世界中が今の人口増加を辿ってゆけばどこでもそういうふうになっちゃうということです。

清水 日本の場合、国土が狭いのに人口が多すぎるといってありますが、考えてみるとわずかに 15% ぐらいの土地に殆んどが住んでいて、あとは空いているわけですね。

編集 偏在が問題ですね。東京のように…

日笠 大きいところにますます集まっているということですね。

吉阪 世界的に見て、一般に首都に集まる傾向にあるようです。首都以外のところは、どんな大きな町でも増え方ははげしくない。ですからたくさん国を造って首府をたくさん造った方が分散計画になる。

清水 日本の県も州にして…

吉阪 州じゃ駄目です。やはりワシントンに集まっちゃう。国でない…

清水 それでは北海道国。(笑)

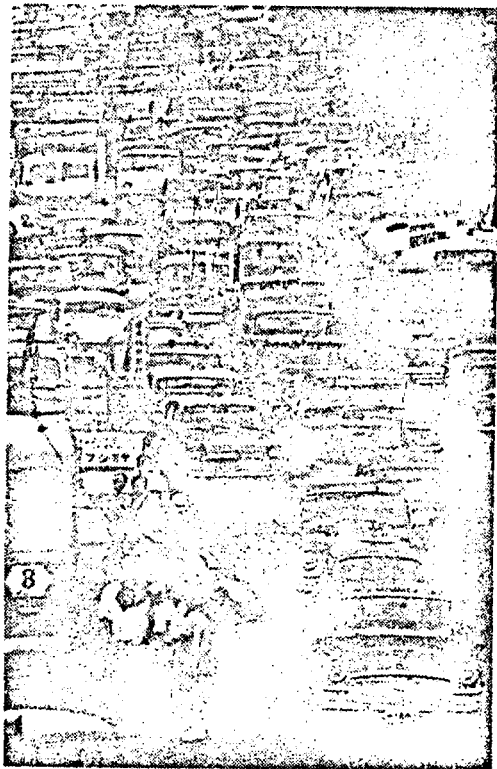
田村 地方自治法ができた頃は、大分、大幅

に各地方自治体に権限を移譲していながら、この頃ではそれがだんだん吸い上げられているいわゆる三割自治といわれる感じなのですね。その辺、北海道国ですか、ステイトごとにすれば、たしかに東京の問題のある面は一挙に解決するでしょうけれども…。(笑)

清水 しかし、都市への集中傾向は、これは止めることはできないんじゃないか。今世紀の末には世界の人口の 9 割が都市およびその近郊に住むだろうといわれていますね。

日笠 まあ、ある程度の集中というのは悪い面だけではありませんね。たとえば、パッと散らばっているのは困るので、投資効果からいうと集まってくるのが必要だと思います。東京のような過大都市に、まだまだ集まってくるというのは問題ですが…

清水 集まる方が効率がいい。集まることによって効率をよくしようという、それが都市だと思ふのです。人間の住んでないシベリアみたいな土地があっても価値はない。狭くても人が集まることによって価値が出る。密度の高いこともやはり日本の資源だと思いま



都市に人が集まるのは必然的な時代の流れとはいっても……



す。
吉阪 その逆もありますね。人口密度の少ないところでは、1人の人間を説得すれば大勢の人間を説得したのと同じになるから能率がいい。1人を口説けばそれで動くのです。
田村 土地の買収とか、立退きの場合には典型的にそうですね。しかし清水先生のおっしゃったこともたしかで、あまりバラバラでも不経済ですね。そこら辺は配分の問題もありましようが……。

日笠 今の分散の話と、一方において集中の話と、これが同時に起こっているのですね。技術革新というようなことが進めば、トランスポーターションもそうだが、コミュニケーションもますます便利になって、結局分散してもいいという可能性が増大するわけでしょう。それと同時に、やはり集中もはげしくなる。

清水 集中すればするほど発展するが、具体的にはみな分散しはじめるということですね。バラツと散らばるんじゃなくて、やはりどこかに固まって、拠点ですね。単なる分散や集中ではなくて、分散・集中という……。

日笠 それが鉄道だけでなく、将来は高速道路で結ばれるとか、通信でも結ばれているというようなことになるでしょうな。

田村 生産面と生活面を二つ分けて考えると、現在のようなのは、良い、悪いはとにかくとして、生産面が、何か新しい情報を得る。あるいはなにか新しい利益を得るということで政治の中心に集中するという傾向が一つありますね。それに基づいて、生活面が引っぱられる。

清水 生産でも、管理機能的な生産は都市だと思ふのですけれども。そうじゃなくて、物

質生産のようなもの、たとえば工場などは、それをいくら地方に放出しても都市は発展すると思う。地方工場を分散しても、管理機能は大都市に集中してしまふ。生産ばかりの都市を造っても真の都市はできなくて、工業区ができる。その近くに便利な小さな町ができるにすぎない。しかし、その町の子弟たちは100万くらいの都市にゆきたがる。100万くらいの都市を各地に育成して、小さな都市は造らない。そして、工業区を作るとか……。

田村 100万都市でないと魅力がないから、100万都市がいくつか必要だろう。それは魅力があるからというのですか……。

水清 それに、一つの地方の首都的なものに相当の権限を与えよ。そこに文化的な魅力があるように、国立大学・国立劇場などをもってゆくようにする。

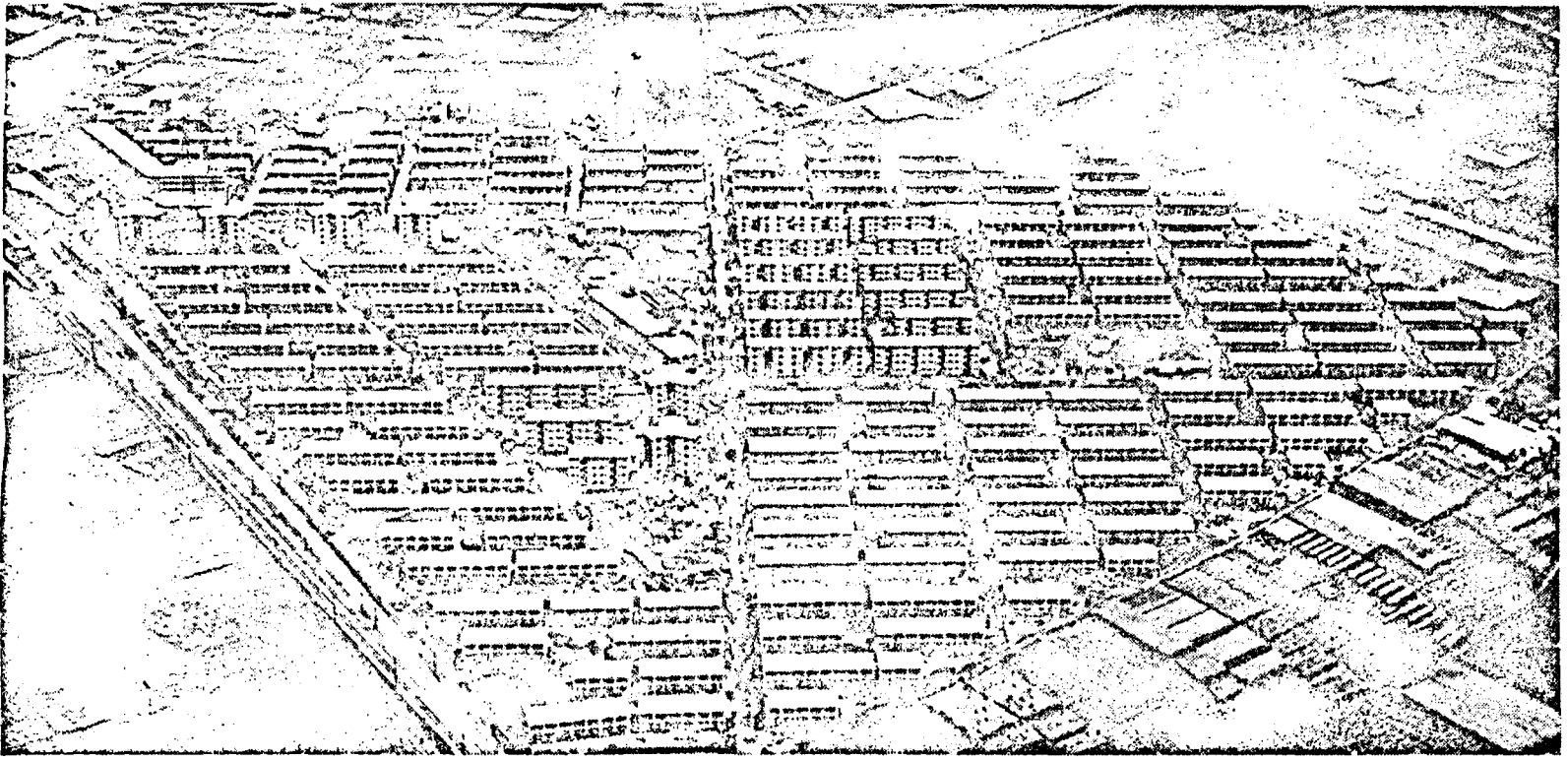
田村 私は中都市にも住みましたし、これは大都市でしょうが大阪にも住みましたが、中都市程度だったら、やはり次は本当の都市らしい都市、人間のたくさんいるところを求め。大阪とか京都くらいのところにゆきたくなる。ところが大阪は文化の中心地とは言えないので、そこに東京という行先がある。やはりオーダー、オーダーで、大きくなるごとに、質的に違ったものが追加されるようになるのですね。

清水 最近、東京の都心の本社機能を調べているが、官庁が近いからいいとか、取引関係があるとか、情報を得やすいとか、そういうことで丸ノ内あたりに集中している。ところが、調べてみると絶対にここでなければ成立しない理由はない。長い伝統でなんとなく歴史的に集まってきたので、基本的な理由は数量的に出てこない。通信機能が発達している

ので、離れていてもいいわけですがね。

田村 しかし、デモンストレーションになっている関係はあるのでしょね。東京に同じ機能のものが集中している以上……。

清水 関連機能をまとめて団地として移せばよい。全国民の中心が東京の真ん中でなければならぬ理由はない。それが都民の生活の中心とゴツチャになっているところに矛盾がある。東京都民の生活の中心面というものと、全国を相手にするようなものが、ちょうど東京の真ん中でオーバーラップしている。別に全国的な中心というものを持つことができるならば、それは東京でなくてもいい。もう少し離れてもいいんじゃないか。新幹線ができて浜松あたりが中心だとすれば、そこでもいい。その方が、全国民にとっては有利になる。もし通信—交通がよければね。ところが、今の東京は、すべての鉄道がそこに上ってゆくし、通信関係もいいから東京でなければならぬということになるわけです。しかし、全国的中心が東京の真ん中でなければならぬことはない。副都心でも一向さしつかえない。その方が健全ではないか。まず、都民の都心と、全国民の都心と分ける。都民のサービス都心と国民のビジネス都心と分ける。もう一つは政経を分離しなければならない。昔は政経は一致するものだと思って、明治以来政治・経済がなれあいすぎてきた。それでいいものと思っている。アメリカでは各州の州庁の所在地と経済的な中心とは別の都市です。日本だけがくっつきすぎている。いろいろ調べてみると、両者は裏の関係、つまり顔つなぎ、なれ合いといった不道徳的な関係で近よって存在していた方がよいというだけである。これが政治を毒し、経済をも毒してい



通勤時間往復3時間はあたりまえ、如の真ん中の、文字通りの“ベッド”タウン……。

る。だから、都心から、政治中心と経済中心を別々のところに移すべきだ。ゴルフができるとか、わけのわからないよくない関係であるわけです。官庁の門前にある企業にはすぐに免許が下りて、鹿児島企業はおくるといようなことだと、それは大変なことだ。経済と政治がなれ合うことはよくないので、少なくとも政経の分離をすべきだ。経済的中心と政治の中心を分ける。それは不可能じゃないわけです。まず、政治の中心を、東京の真ん中からもう少し別のところに移してゆることが大事じゃないかと思うのですが。

日笠 東京は、たしかにその両方がくっついているのです。しかし、清水さんのいわれたように、やはり、フェイス・ツー・フェイスでお互いに会わないと解決しない問題があるんじゃないか。それが、どういうふうになっているか。一度調べたらどうかと思いますね。清水 ありますけれども、真ん中にいなければならないということはないと思うのです。集まりすぎて現在のように混乱するより、少し離れた方が接触がよくゆく。地下鉄で結ぶとか、環状鉄道で結ぶとか、フェイス・ツー・フェイスの効果を挙げながらもっと拡大してもいいんじゃないか。古い時代の都心という概念ではなしに、新しい時代の都心の能率化を考えて接触させることです。つまりよくあえるように都合よく分散する。

田村 鹿児島と東京で時間が違ってきて困るというお話ですが、現実にやはり違うのですね。私ども大阪に本店のある会社にいたのですが、東京の官庁に書類を出さなければならぬ場合、東京にも事務所はあるが、東京から書類を出すだけでは事情が融通しない。事情の説明に上京しなければならない。事情

の説明だけでなく、常駐しなければならなくなる。するとそういう人間の数がどんどん増えてくる。悪循環になってくるのです。現実にそれをやらないと、相当に差があるわけですね。

日笠 テレビのスイッチをいれて、お互いの顔がみればいいというフェイス・ツー・フェイスがあるのですね。しかし今日のビジネスは、そこまでいっていないので直接会わなければならないということでしょうね。

清水 集まるべくして集まるということですね。全然意味ないわけじゃない。しかし集まりすぎて困る問題がたくさん出てきた。それは都市計画で都心をどう再開発してゆかかで決まりそうに思うが、要は今の都心をどう考えるかだ……。

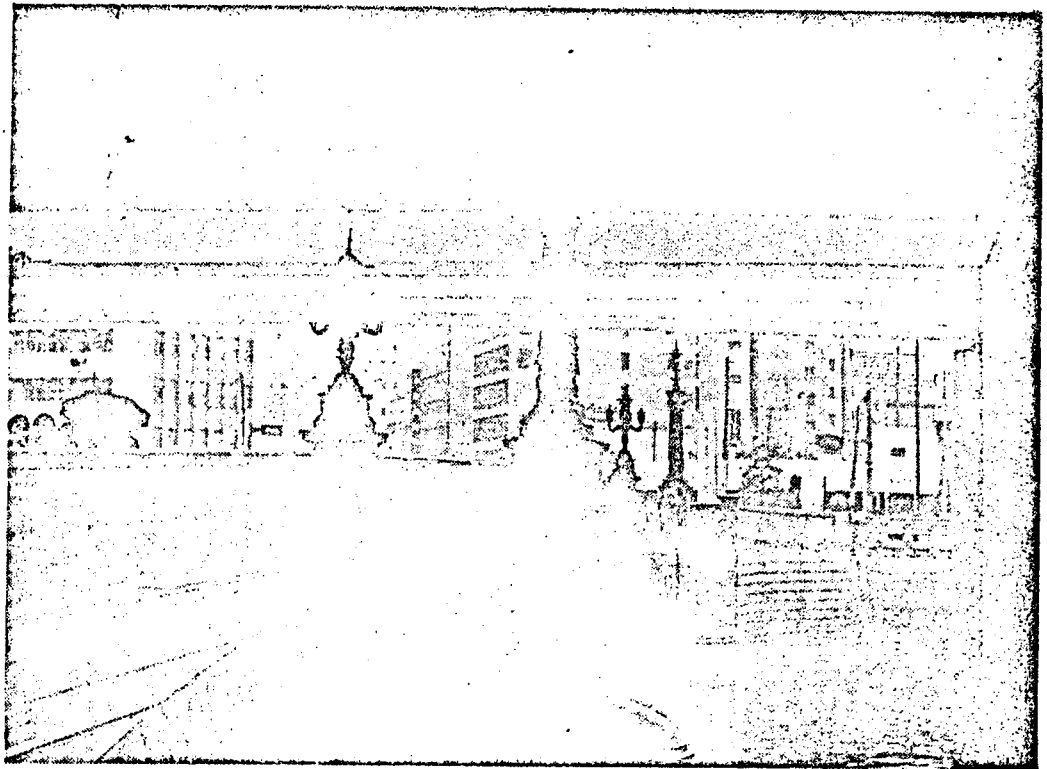
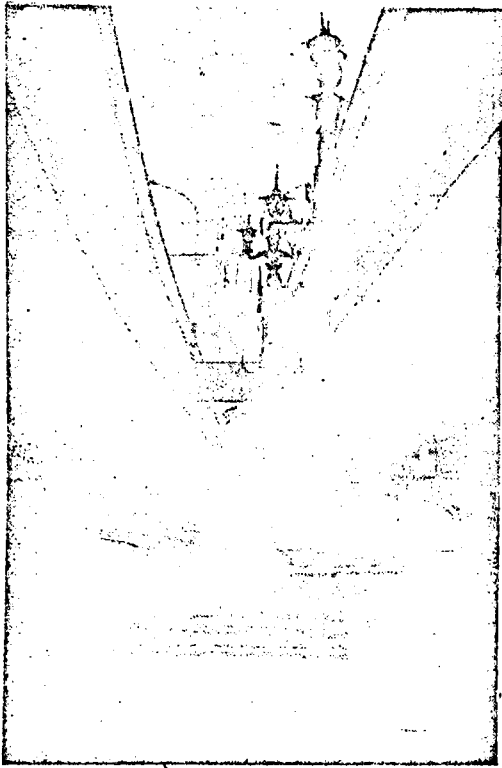
田村 集まることはいいが、本当に集まらなくてもいい人間はあっちにいてくれということですね。

日笠 やはり、集まることを是認するなら、やはり都心計画というのがあるのです。どうなるかはそれを前提として出てきますからね。ぼくは、やはり都心問題は、周辺の住宅地とか居住地問題とは違うと思うのですね、考え方が。やはり都心はエフィシエンシーが第1で、それに合わせて環境が変わるのだと思います。住宅地になったら全然環境が第1で、2番目にエフィシエンシー、それくらいの違いはあるように思うのですね。

清水 学園研究都市というものを造っていますが、これなどと同じように都心は造り得ると思うのです。サービス都心はいまままで造られたためしはなく、自然発生したのであって、新宿にしても、池袋にしてもみなそうです。しかし丸の内・霞ヶ関は計画的に造

ったものだ。キャンベラ・ニューデリーのように、だから東京でも計画的に作りうらと思う。都心団地というものをもう少し健全な場所に誘導して、交通その他、いろいろなものをエフィシエンシーにしてやる。それは東京の真ん中でない日本の真ん中にもってきた方が国家全体からみてもいいことだと思うのです。まず、都心計画の方が最初必要であって、研究所都市計画とか学園都市計画というのは従の問題だと思う……。

日笠 その場合に、清水さんの都心というのは、副都心くらいに分散していいんですか。清水 もっとはなれてもいい。外環状線あたりから新幹線ができたら、もっと動き出してもいい。新幹線ができると、非常に日本の構造が変わるんじゃないかと思うのです。日本は、道路より鉄道だと思うのです。だんだんと大阪が東京より、東京が大阪の方によってきて、名古屋あたりが地理的にも国の中心ですね。表日本と裏日本が近よっている一番狭い場所でもある。できたものは、都市というものでなく、都市のベルト地域、それが日本の機能地域になる。それは日本の連続大都市地域ということになって、その適当なところにビジネス・官庁都市というものを分散してゆけばよい。枠のある都市というものから、国家の都心を開放してやればよい。国家的な中心は、既存の町の真ん中におくべきじゃない。工業区と同じに都心区を造ればよい。日笠 趨勢としては、エンジョイアブルな機能の方が出やすいという気がするのですよ。ビジネスの方がむしろ出にくくて、ショッピングのようなものは実際にも出てゆくと、車がつまっちゃうということだけで相当出ている。ビジネスは、高い地下鉄を引いて



空から見れば立派な幾何学模様かもしれないが、このタッパの低さ……。

でも通わせようとする。実際の動きは逆ですね。その辺、ビジネスそのものが分散できればいいが、できない場合にはどうするか。可能性の薄い場合ですね。そうするととにかく、丹下さんじゃないけれども、ビジネスというか、三次産業をむしろ能率的に集結して、都心でやれるのかやれないか一番やってみるという。そういう考え方も出てくると思うのです。

清水 その場合、だいぶいろいろな問題がある。通勤難とか、交通麻痺とか、そういうものをどうするかということになると、だいぶ不経済ですね。

日笠 だから分散論に、工場の分散とか、オフィス分散とか、それから中央官庁をもってゆくとかいろいろ提案があるのだが、ビジネスを分散するというのは、割りに少ないですね。

清水 少ないけれども少し出ていますよ。副都心にもってゆくとか……、ビジネス衛星都市でなければ、絶対だめだという勇敢なのがある。これを動かさないで他を動かしても、結局本末転倒だ。

日笠 ビジネスを動かしたら吸引力があるもの。当然それは飯の種だから……。

清水 地価をウンと高くして、それだけ税金もとられるということになると、全然違ってくる。都心には社長他2、3人がいて、あとは全部副都心にゆく。そうすれば、今の都心でも十分余地がある。

田村 結局、なにかその辺の関係は、特別に計画的にもってあげれば別ですけども、現実の動きはやはり経済的力関係じゃないかと思うのです。現実に銀座あたりで坪何百万円すると原価計算して、売上げと経費をみて商売が

成り立つかという、絶対に成り立っているところはない。小単位でやっている企業なら、土地でもウンと高く売りとばして新宿あたりでやった方が商売が成り立つぞということで、現実に動いてゆくと思うのです。しかし銀行や商社の本店というようなものは、自分の手足を持っている。それ自体のオフィスとしては引合わないが、総合経営の計算では引き合う。それで、商店はどんどん出てゆくが銀行などは拡張するという動きのように思いますね。

清水 いまいった土地制度をかえると都心だと、全然違った形になったらだいぶ違うんじゃないか。都心で坪300万以上だったら、何を売っても貴金属以外駄目ですね。それが今300万以上しているのに成り立っているのは先祖伝来から土地を持っているからですよ。生産性が全然上がらなくて地面が上がってゆくからそれによって差し引きも上がっている。東京の中小企業なんかみなそうです。東京都心にある企業は、土地資源の上のっかっている。ただ坐りこんでいけばだんだん資産が上がってゆくという、その矛盾をどこかで切ってしまうと、そんなところに行けなくなってくるんじゃないですか。

日笠 ところで、計画形態は、都市のイメージを含めて、都心は分散しちゃった形になるのか、それともいまより集中するような形になるのか……。

吉阪 今、一番問題になっているのは、建築と都市との境界線をいったいどこに引いたらいいかということです。いったい、エレベーターが都市なのか、階段が都市なのか、ダクトスペース、パイプスペースが都市なのか、その辺のところがきまらないことには……。

日笠 というのは……。

吉阪 いまの建築はそうっていない。企業投資になっているのです。それが公共投資でなければならぬと思うわけです。

日笠 だから、人工地盤のようなものを公共施設として作るとか……。

吉阪 その回答が、今、出ていないわけですね。

日笠 そうなった場合どうですか。

吉阪 そうすると、企業投資はそれから先のランチの先だけですむわけです。そうなれば、立地のために非常に高価な支払いをしなければならぬということがなくなる。公共投資として、そういう利得が受けられる。全部自分で支払わなければならないことから大変なことになっちゃう。

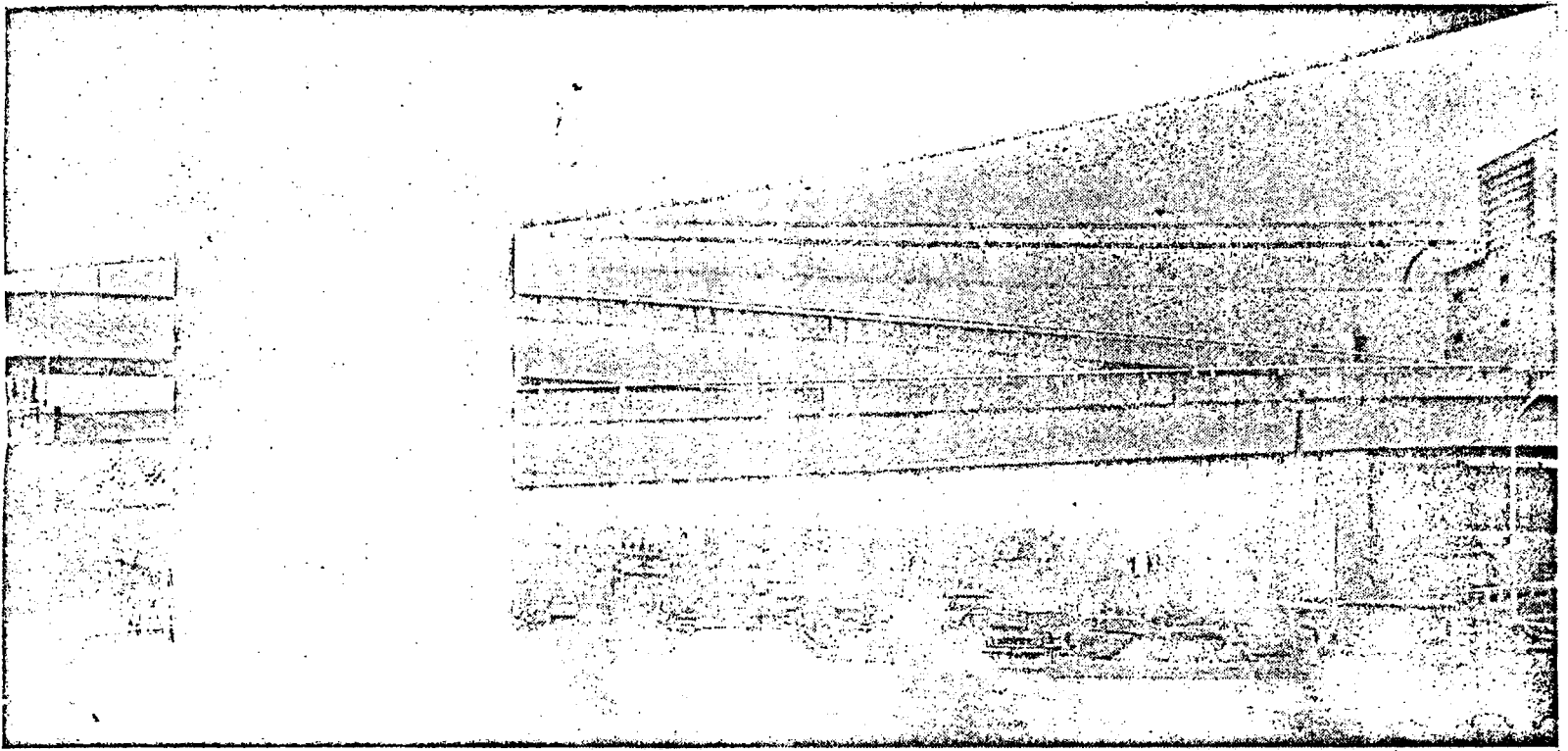
日笠 土地なんか一番問題だと思えます。それを公共団体が人工土地みたいなものを作っちゃう。そういうことでしょうか。

吉阪 だから、公共投資の範囲がもっと増えてくればいいわけなんだけれども、それを誰が払うか。関係ない人が税金で納めていたのでは、これは全然だめだと思うのです。

編集 いまの実状ではどうなのでしょう。

吉阪 どこでも問題になっていると思いますね。アパートを建てるにしても上の人は損したりする。ガスや水道でもパイプを長く引かなければならぬ。それを全部が均等に負担して、なんとか払っているのです。エレベーターと地下鉄をいっしょに考えなければいけない。

日笠 採算の面ももちろんあるでしょうが、それは公共団体が造るということは別としても、一つの形態としては、ぼくは機能的には垂直の方が水平移動より能率がいいということ



と、もう一つはそこに働く人間の問題、環境条件がよくなると思うのです。通勤はむしろ多くなる。それに対しては、地下鉄をやるとか、高速道路とか、全部公共事業ですね。吉阪 だから、利益者負担として余計払ってもらわなければならないわけです。そうすれば、そこに働く人間が減るでしょうから。日笠 もう一つ気になるのは、平面的な発展だと、急に発展する場合にはその辺のまわりがサッとプライベートに再開発されていってしまう。また、スローダウンした時はそのまままでよいというような、非常に弾力性があるのです。そういう垂直な都市というか、垂直な都心にした場合、そういうフレキシビリティ

集中と分散をコントロールする学問と制度と組織

吉阪 こういうことがあると思うのですよ。人類の歴史をちょっと眺めてみると、アダムとエバから始まって35億になるまで、40万年くらいになりますかね。それくらいかかってやっとここまで到達した。それが4・50年くらいの間に倍になって、いままでに生きて人間と同じ数の人間が一度に生きるようなことになりかねない。ここに新しい、人間と環境を調整する学問が必要だという感じがする。それができていないので、都心をどうしろといっても何から手をつけていいかわからない状態じゃないかと思うのです。建築家にしても、都市計画へのつながりというか、今の段階では何もできない段階ですね。われわれのできる範囲というのは、それまでの足がかりというか、あるいは実験というか、こういう考え方でやったらゆくんじゃないかという見

いはどうか。建築的に解決できるかどうか。構造物として……。

吉阪 それは、おそらく重層の平面だろうと思うのです。要するに地上だけでやっていたことを空中でもやれということになる。

日笠 上に伸びるのでなく、枝が伸びる。しかし、基礎のようなものは、これより増すということはできない……。そういうことができれば、ぼくはいいと思うんだけど……。

吉阪 限界はあるでしょうね。それと日笠さんのいわれた、住宅とのゴチャマゼになっているのでは工合がわるい。

日笠 住宅の場合は別だと思うのです。

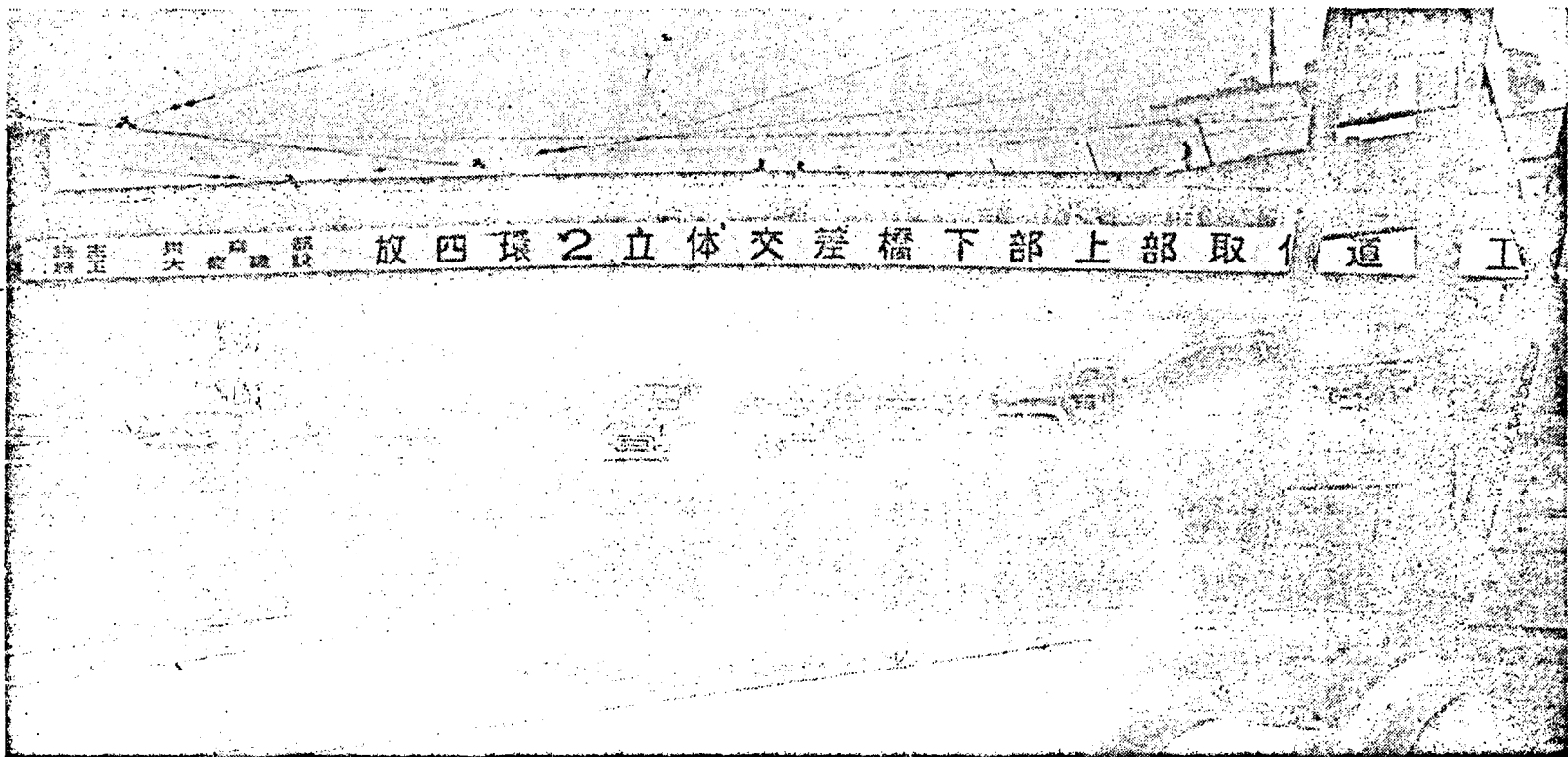
本みたいなものやってみせる。具体的にみせて、なるほどそれが全部広がっていったらよくなるだろうということをやってみせる以外ないんじゃないか。考え方の上でのそれだとか、形の上でのそれだとか、生活の仕方の見本みたいなのだとか、それくらいしかできないのでね。

日笠 都市計画の場合、かなり実現しない場合がある。この間のコンベ議論もそうで、建築の場合、コンベをやったらかならず実現させよという主張があるし、もっともだと思うのですが、都市の場合ちゃんとした都市計画を全部一人の建築家に任せて、その通り建てるというのはなかなかない。その計画の、いろいろなバウンダリーが、非常に固まっている。設計ができてきて、その通りやろうとしてもなかなかできないということはある。

それも無理ないと思うが、かならず実現しなくても、それが出来て、社会的にも非常に大きな影響を与えるということはあるだろうと思うのです。どうですかその点。ぼくは、そう思うのですがね。とにかく、都市計画とか、あるいは建築を群として扱ってゆくような学問もなく、そういう専門も確立していない。そういうことから東大の都市工学科などもできてきたと思うんですが、これだけでもまだ不十分で、広い意味ではソーシャルの問題、エコノミックの問題も、これは工学ではないけれども、そういう分野も入れたいいわゆる都市開発、あるいは、都市研究所ですか、そういうものが望ましいわけです。今はそこまでいていない。一応、工学という範囲で出てきたのですけれども。

吉阪 従来建築家の養成は美術学校か工学部で行なわれた。前者は芸術に重点がおかれ、後者は技に重点があるが、どちらを出たのも十分でないというところにきていると思うのです。基本的なものの考え方が違うような気がするのです。都市とか建築とかいっているものを造り上げてゆく時の頭の働かせ方というものを一つにしておかなければならない。それを一体どうやって訓練したらいいか問題だと思うのです。それから、創作だということが常につきまとっている。創作は前になかったことをやるわけです。教えるわけにはゆかない。教えたらく創作でなくなってしまう。

日笠 それと制度の問題があるのです。一番おかしいのは、町が町の市民によって造られない。形の上においてもそうになっていることですね。これは、さっきの財政上の問題もあるし、地方の権限の問題もありますけ



“オリンピックのために” “都市再開発のために” の美名のもとに……

れども、都市計画をプランニングするのは町の人たちで、町が注文して町の人たちがプランを作る。外国の場合も一応大臣の認可はうけるけれども、決定権は市長にあるわけです。市長というか、市民の代表からなる市議会ですね。それが日本では建設大臣が決定するという、いまだに大正8年以來の制度によっているのはおかしいじゃないか。それに、いま言ったように、地方でできることは非常に権限が少ないわけですね。だからいろいろなプランにしても、特徴がなくなるのです。全国画一的なプランになるおそれがある。それが、もっと地方に密着していれば、自分の町はこうしたいんだということで、そういうコンサルタントみたいな優秀なスタッフを自分のところで頼んで造ると思うのです。ところがそれができない。それからもう一つは、非常に日本の都市計画というのは、大ざっぱでね。道路を造ったり公園を造ったりする事業はあってもマスタープランのようなものを実現してゆくという制度が全然ない。地域性というものが非常に生ぬるくて、現状に色を塗って、多少計画的な要素を与えたという程度でやっている。そんなものをマスタープランと称して、さし当たり困るようなところからやってゆくということですからね。

吉阪 マスタープランというものは、必要だと思いますか。

日笠 マスタープランはやはりいると思います。その実現ということを前提としてね。

吉阪 マスタープランを作るまでに何年間かかる。ところができた時にはもう状況が変わっているということはないですか。

日笠 それは修正でゆくわけです。マスタープランは固定したものじゃない。イギリスみ

たいに、5年おきにやるとかいうことで修正してゆけばいいので、ディテールプランだけだと方向を見失うと思うのです。法定計画でなくてもいいから、やはり全体をリードする目標みたいなものがあつた方がいいと思うのです。

吉阪 それはビジョン程度のものでたくさんだという気がする。図に描かなくてもいいような気がするのです。道路がどこを通るか、予定計画線とか、そういうものをそこまで引くのは少しゆきすぎだという気がするのです。

田村 現実には、マスタープランを作ると土地が値上がりして、そういう方向にゆかないということになってしまうこともある。しかし、いままでのようなマスタープランではないけれども、やはり具体的な手懸り、この頃よくいうマスタープログラムというようなものがあるんじゃないかと思うのです。今までのマスタープランというものは、でき上がりにすぎたのです。

吉阪 むしろ、プランという図式的なものよりは、こういう方法でやってゆくんだという、そこまでいいような気がする。それに参加してくる人間が自由にやってゆけるように、こういうシステムでやってゆくんということで、どういう結果になるかを初めに規定することはないと思う。

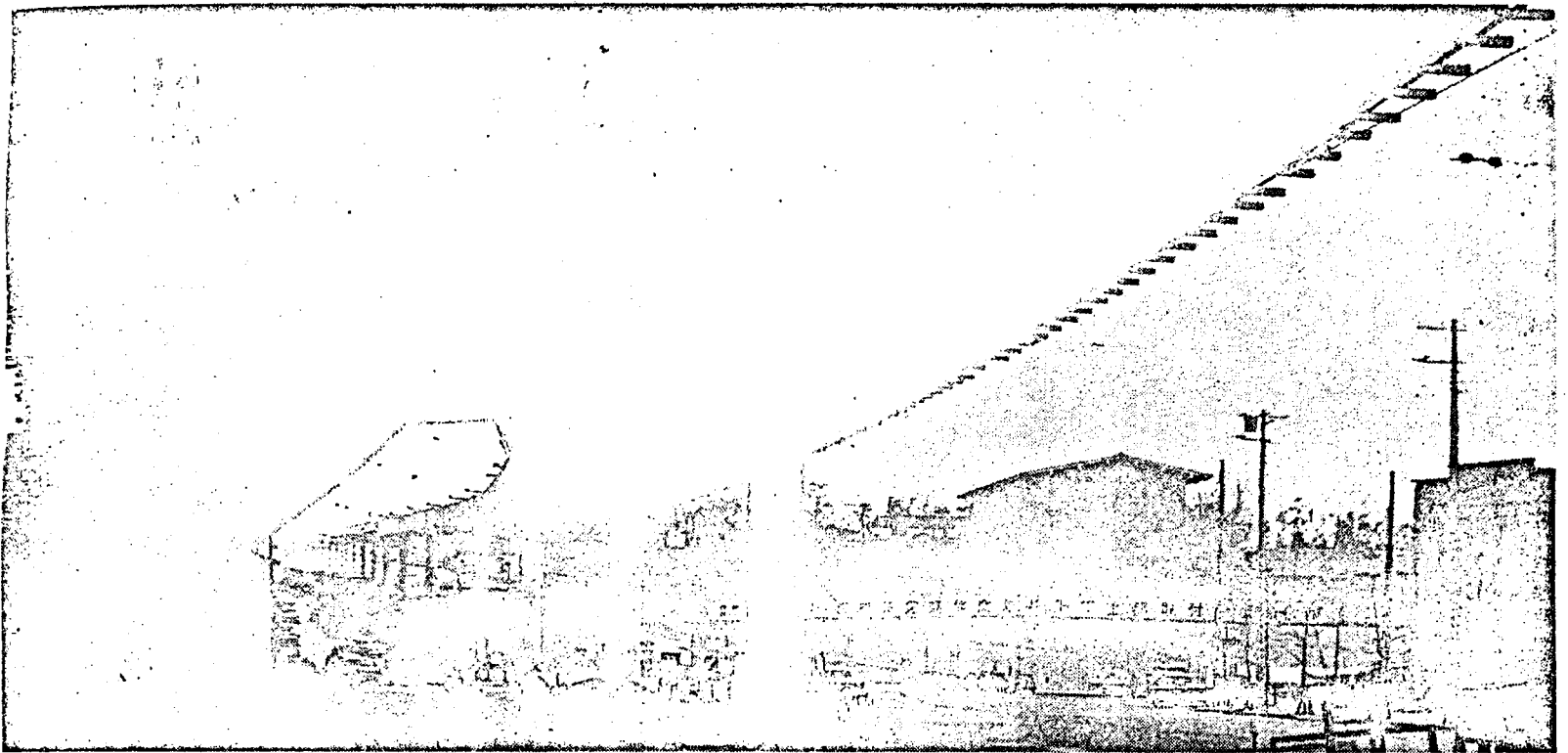
田村 プランを誰がきめるかということによるのです。建設大臣がきめるのはその程度でいいんじゃないかということですね。市民がきめるのは、どうしてもその先の具体的な段階が必要ですね。

吉阪 市民がきめるのは部分じゃないかと思うのです。むしろ、それしかできない。

清水 日本では、都市計画というものができる段階になっていないのじゃないか。体制が、土地問題とか、いろいろな問題がちっともとのえられていないので、ただ、プラン・プランといってみても全然意味がないから吉阪さんのような意見が出ると思うのです。まず、上からは、政治が農本国的のままでまわっている。議員の比率が農村偏重になっている。学問的にも農学部や農林大学はあっても都市学部はないし、都市大学がない。ようやく都市工学科ができた程度で、学問的にも、何もしていない。まず、そこら辺に問題がある。また、国民の市民性、そういうものから改善してゆかなければならない。そして一番大事なのは、やはり土地制度だと思うのです。土地利用は、農村的な土地利用じゃなく、宅地の問題になる。ところが地主というものは、農地と同じ制度になっている。それが全国を風びしている。それにみな突き当たってしまう。ここまでわかっているのに、誰もこれに触れないでやろうとする。土地問題をのけて通ることができない段階になっているのですがね。

吉阪 今、マンション、高層アパートができてきたでしょう。あれはいいきっかけだと思うのです。自分の土地がなくなってしまうのですから。土地分譲をしているが、何%ということで、自分の土地がどこかわからないのです。土地への観念の切り換えにはあれが非常に有効な武器だという感じがする。農本的なものは入りたがらない。

日笠 清水さんのいわれた土地問題は、さっきの話で、これからの都市は分集形態をとらなければならない。それには、やはりマスタープランがいるわけです。今のような細かい



地域制でなくて、広域の市街化計画、要するにこの町はこういう町にしたいという、それだけでも内容はいいと思うのです。そういうようなマスタープランがないのですよ。どことなく町になっていってしまふ。

編集 そのマスタープランはどこで樹てれば一番いいでしょうか。

日笠 それは町です。自分でできなければ、やはり専門家にたのんで、マスタープランを樹てるといふ……。

吉阪 それでね、この町は、どのくらいの大きさまで考えたらいいかということ、決めるのです。たとえば、どのくらいの人口までならば成立するかということ、学問的に出せる気がする。経済力やら、なにやら、その土地の人民の性格とか、いろいろ条件は加わるでしょうけれども、その程度のマスタープランといえますか、町はこれくらいの大きさにやっておけば宜しいという程度は出せそうな気がしますね。それが必要で、それができれば変な投機をやってもだめになるということだし、うまく納まってゆくような気がする。

編集 町のマスタープランを作るコンサルタントなり、そういう組織のイメージというのは、どういふものでしょうか。

日笠 マスタープランの段階では、それは誰がやるかという、ちょっと範囲が広いと思えますね。ディテールになると建築やさんとか土木やさんがいいとかいうことになるが、マスタープランの段階では、プランニングに精通した人なら誰でもいいんじゃないか。現在、建築とか、土木とか、地理とか、専門の方がおられますがそれはかなり広くていいんじゃないかという気がするのです。広域のマスタープランをやる段階ではね。ただ、まあ、

専門的に出てゆくだけでなく、専門を越えて、まとめる能力がある方じゃなければならないと思うのです。それさえあれば、専門にとられることはない。

田村 ぼくは、それには、やはりプロフェッションが一つ必要だと思うのです。地域開発計画といわれている経済計画や社会計画を具体的なものに落とす落とし方は無限にあるので、その直接段階はまず土地で、その次は施設、施設の中には建築その他含めるのですが、まず土地に降りるわけで、その段階でフィジカルになる。しかしそのコネクターがないわけですね。それはそれで別に働いて土地買収事業や建築だけになっちゃう。それにつながって総合し計画するプロフェッションを確立しなければならぬと思うのですけれども。

編集 結局、町のそういうコンサルタントといふか、そういうものは必要だけれども、それだけでは解決しないし、国家的なコンサルタントといふか、そういうものも必要になってくるということですね。

清水 日本の地域が造られてゆく生態を研究して、なにが大事かということ、コンサルタントで全部考えなければなりませんね。

日笠 マスタープランといっても、広い意味の都市計画から具体的な街づくりにつながってくる制度が新しく出てこなければならない。それが、いままでのようじゃだめだ。どうしても地区計画をやらなければならない。公園団地は、そこだけ買収すればとにかく設計した通りででき上がるわけでしょう。それが住宅地だけでなく、どこにでもできてゆくようにしなければならない。全市街地がそれでやられるというのは無理だと思ふのですが、かなりの部分は、要所要所は、それで実際

デザインした通りででき上がるという制度ができてこない、建築家が都市計画に本当に参加するということもできないと思うのです。これは学説が出てきてもだめで、そういう制度にのった仕事でなければいかんと思うのです。

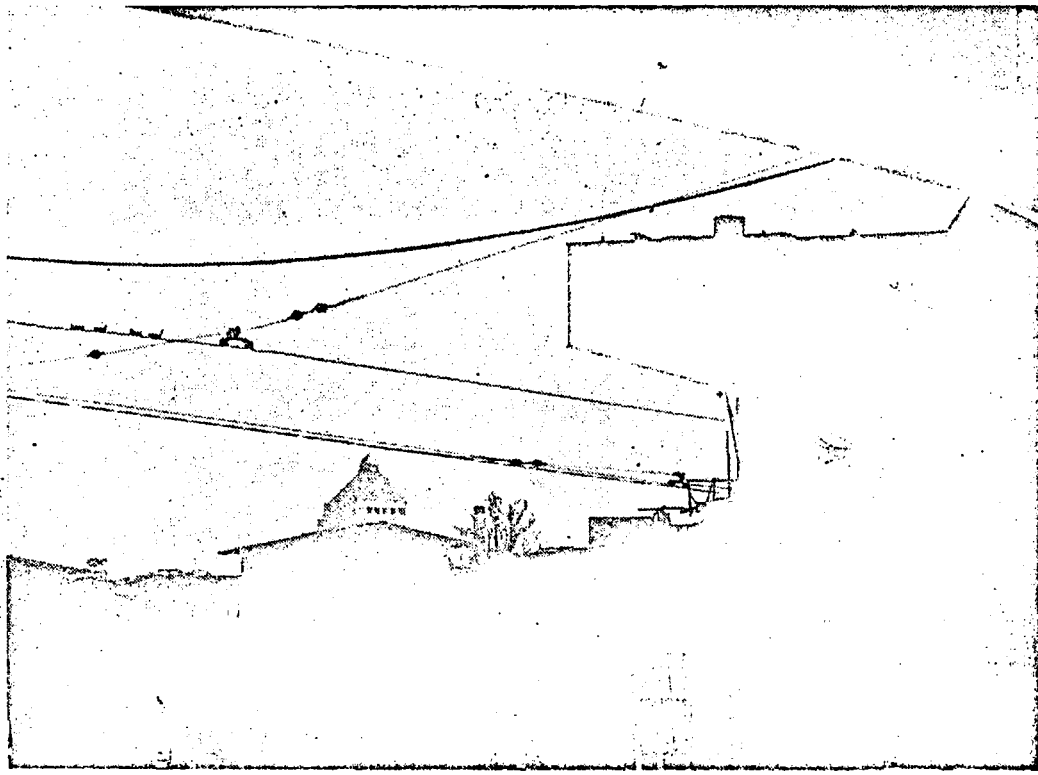
田村 ただ建築家の都市への参与の場合、建築家の考え方に問題がありそうだ。ポーランドのある都市計画研究所長がいていたのですが、建築家は自分の作品をわたくしが作ったと言うが、都市計画家はこの町をわたくしが造ったとは言わない。ただこれは、正しいか、悪いか、こういう方向がいいかということ、を言うのだということをしていておりましたが、非常に興味深く聞いたのです。やはり、都市計画の仕事はそうだし、建築家でも、多かれ少なかれそういうことはあるんじゃないかと思うのです。つまり、完全に芸術的なモニュメントでも建築するなら別ですけども、一人相撲で全部造っちゃおうということに問題がある。

日笠 最初に与えられた条件が不満だということが、往々にしてあるでしょう。その中で仕事をしなければならぬという……。

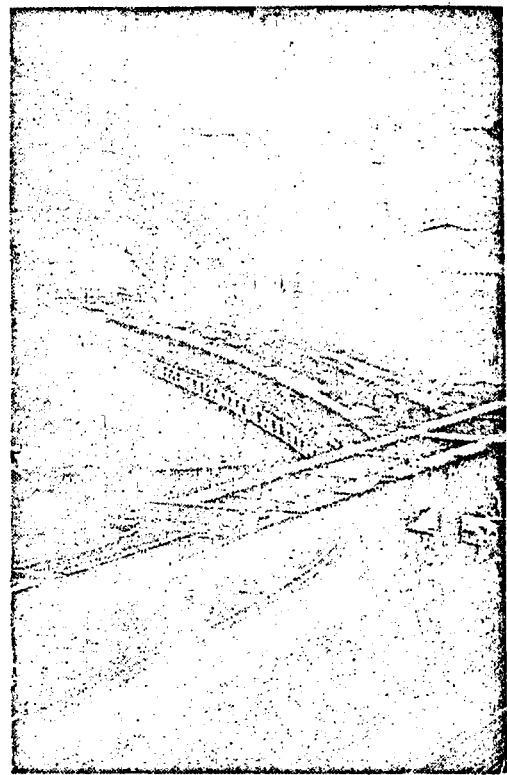
清水 だから、いままで、建築はできて真の都市計画はできたためしがない。すでにあるものを、なおして造る都市計画はむずかしい。ないものを造る建築はできるが……。

吉阪 非常な独裁者であればできますね。
清水 そういふ都市はかならずしも育たないのです。平安や奈良の都も、今の京都や奈良の町は造った当時の位置より山の方に片寄ってしまった。札幌の都市をみても、できた都市はゴパンの中に入っていない……。

日笠 スウェーデンみたいに、人口がわずか



政治家たちはなにを考えているのか……。



Photos: S. Okamoto

で、経済がゆったりしているという都市制度であれば、建築家の設計でもできるかもしれないが、日本の場合、かならずしもそれはゆかない。急激に変化する場合には、それに合わせてゆく都市のパターンというのは、よほど融通無碍というか、八方破れの方がむしろよかったという場合が相当あるのですね。

田村 ウッカーリ描いたとおりにやれば、とんでもないことになる。そこが瘤になるということもある。よほど現実の動きを知ってかからないといけない。

日笠 新官庁都市というのは、一つのまとまった土地を買収して、新しい町を作ろうというのですが、そういう場合は日本に非常に少ないのですね。今度が初めてみたいですね。たいていは、普通の町をふくれ上がらせるとか、町の一部を再開発するようなことなのです。スウェーデンなどは都市計画の制度が非常にきめ細かくできているから、建築家がタッチしないとプランができないわけです。そうなってくると、官庁の中にもそういうスタッフがかなりいるわけで、大都市になったら町の建築家や市の建築家が非常に能力を持っている。地方都市はそういうスタッフを抱えられないので、結局コンサルタントを必要とするわけだ。しかし、日本の場合、都市計画がそこまできめ細かくないでしょう。建設省のチェックをとれば片ずいちゃうということになるのです。今度の新官庁都市なんか、初めてのケースじゃないかと思う。それでこれをコンペにしようという動きがあったようですが、これだったらバウンダリーさえ固まれば、そういうコンペは可能なのです。ただし、その設計条件を非常に細かくしてやると、結局、なにか公園団地程度のものでな

っちゃうわないとはへえないのです。こうなると建築家が目をむいて設計するほどのものじゃないので……。 (笑) そういう可能性は、あるのです。ここはぜひ必要な土地だから、買って下さいとか、そういう提案まで含めたマスタープランでなく、どんどん先にきめちゃって、ここには何々研究所、ここには住宅と決めてから懸賞設計してもしようがない気がするわ。

吉阪 少しはよくなるでしょう、衆知を集めるから。

編集 昨年末に筑波山麓の新学園都市が閣議で本決まりになって、そのコンペ問題がいろいろと建築界に話題を投げましたが、われわれが都市の問題を考えると、建築はもちろん、政治・社会・経済などあらゆる分野からのシビアな発言の中で問題にされているようなことが、これからの都市の現実にあるのだと思うんです。先ほど日笠さんのお話もありましたが、《ねぐられた住民》の問題もあるわけです。その点をふまえて、新しいビジョンで各界の英知を集めた機関をつくって、国づくりの母体としたらどうかと思うのですがどうでしょうか。

日笠 その母体の役割は、どういうことですか。

編集 はっきりとはわかりませんが、たとえば、若い建築家が都市の問題をまじめに考えて一つの提案をするとき、まず仲間と話し、学会とか協会とかいうところに横に働きかけています。それはそれなりに大胆なことですけれど、もっと住民の実情もわかって、政府や財界等の実権をもった機構にもつながってゆける。そういった時のジョイント部の役割をもったようなものです。もちろん、その機

関の中にも建築家や都市計画家が入っているのですが……。

日笠 政府の機構の中に作るのですか。それとも……。

吉阪 メキシコなんかやっている体制じゃないかな。メキシコは実際には、いろいろな問題があるらしいが、各庁の中に建築家が入って、その人が大統領直属の諮問機関みたいなところに属している。そして、各庁に配属されていて、各庁の今年の予算を立て、立てた予算で空間的にどこにどう配分するかということ計画してもってゆく。片方は予算折衝して、片方で空間折衝してゆくという場所があるわけです。なにか事業をやる時、その空間はどこだということを論議する場所です。あれは、国の中に国有地が多いのでやり易いような気がするのですけれども。そういう意味で、大統領直属で、政治のいろいろな大方針をやる時予算審議などの段階からでてくるわけで、そのとき、空間の問題も一緒にやってゆくというような……。

編集 そういう新しい視野から考えてゆかないと、本当に血の通ったものにならない危険があるような気がするのです。たとえば、あらゆる分野における都市に関する資料をあつめてインフォメーションできる機関であるような母体があったらいいんじゃないですか。政治がコンサルタントとしなければならないような……。

清水 いまは、国家でそういうものがなくて、個人プレーですね。起こりそうだとすると、ワアワア騒いでやる。それを組織化してオフィシャルなものにして国民と国との間に立つというようなものは必要ですね。

編集 それではこの辺で……。

《終》